



# 2月の園だより



令和8年2月 富田林市立錦郡幼稚園

冬来たりなば春遠からじ ~ 自然の中で、自然とともに ~

以前、園だよりにこんなことを書きました。

『日本の四季(春夏秋冬)は、やがて二季(夏冬)になる』ようだ。

去年は秋になっても暑い日が続き、少しずつ気温は下がっては来たものの、12月になっても暖かく、そのまま年を越えて、何と1月19日になっても、最高気温は15.5℃もありました。ところがです。翌20日『大寒(だいかん)』には6.1℃と一気に低くなり、更に21日の最低気温は氷点下となりました。本園のビオトープ池にも氷が張り、こどもたちが大はしゃぎしていました。とても寒く冷たい日々が続きますが、『冬はつとめて』(『枕草子』の一節、冬は早朝が最高に素晴らしい)と読んだ清少納言の心情もまたわかるような気がします。

不思議なことに、この寒さの中で冬野菜は甘みを増すといいますし、園庭に植えたチューリップは、早くも芽を出してきました。「こんなに寒いのに、芽が出てくるのは何でかな？」はな組(4歳児)さんに尋ねてみました。「みずをあげているから」「たいようがあたっているから」意見がさっと出てきました。「そうだね。水と太陽、大正解！他にもあるかな？」「うーん・・・」大健闘でした。次にそら組(5歳児)さんに同じことを聞いてみました。「みず(あめ、ゆき)があるから」「たいよう(にっこう、ひのひかり)があるから」少し間があって「かぜがあるから」と言う子が出てきました。意見が分かれたのですが「くうきは、いるなあ」というつぶやきに一同納得でした。そして「つち」が出てきました。「そう、土がいるんだよね」さすがは、そら組のこどもたち、「つちのなかは、あったかいから」と予想を超えたところまで来たのには正直驚かされました。

2月には『1年間の総まとめ』とも言える生活発表会(劇ごっこ)があります。今年度、こどもたちが幼稚園で仲間と一緒に生活する中で、見つけたこと、不思議だったこと、考えたこと、わかったこと、楽しかったこと等を取り入れながら劇として発表します。童話や昔話をただ忠実に演じるのではなく、それらを参考にしつつもあくまで自分たちの生活を土台(基礎基本)にした劇にしていきます。このことが生活発表会と名付けられている由縁でもあります。ひとりひとりも集団としても輝ける、そして温かいものになるよう願っています。

暦の上では、今年の『立春(りっしゅん)』は今月4日で、期間としてはこの日から19日までとなっています。この期間には、鶯(うぐいす)が鳴き始めると言われています。また鶯は、別名を春告鳥(はるつげどり)ともいい、春を代表する鳥の1つです。さらに取り合わせのよいものの代表として『梅に鶯』というのもありますね。今年は、「穏やかでゆったりと時が進む」春の日々を『にしこおりファミリー』みんなで過ごしたいものです。土のことを考えながら・・・

園長 塩野 義和